

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっかい生きてます!



昨年度、古希を過ぎて新たな学びをスタートさせた栗原豊センター長らに刺激を受けて、今春も二人のスタッフメンバーが同じ地元の茨城県立鹿島灘高校の定時制課程に入学しました。少しとうが立っていますが、一人は1年生として、もう一人は2年生に編入学し、ともに2度目の高校生として夜間に勉強しています。依存症の回復を目指す日々の活動と勉学との両立は、世間が考えるよりも厳しいもので何かと苦労が多いと思いますが、どうか頑張ってください。=3ページに記事

2017

4

念願だった 府中刑務所への メッセージが実現



季節は春から初夏に向かい、新緑の木々が眩しく目に映ります。昨年春に地元の県立高校に入学して“70の手習い”を始めた私ですが、苦勞しながらも無事2年生に進級でき、孫世代の同級生らと毎晩机を並べています。嬉しい事に今年度も若い入寮者2人が私達に続いて同じ高校に入学し、新たな学びをスタートさせました。スタッフとして忙しい2人ですが、昼間は仲間の手助けと自分の病気(依存症)の回復に励みながら、平日の夜間には一世代下の生徒達と熱心に勉強しています。

さらに今回は、もう一つ嬉しい報告があります。かつて私は東京・八王子の医療刑務所でメッセージ活動をした経験がありますが、これまで敷居の高かった同じ三多摩地区にある府中刑務所へのメッセージ活動が認められたのです。今後は薬物離脱教育相談員として受刑者の中に入り、月に一度ミーティング形式で回復に向けたメッセージを届けます。遠距離なので夜間授業との兼ね合いが心配でしたが、時間的にも支障がないことから引き受けました。もとより刑務所へのメッセージ活動は、私自身の回復に繋がるので有難い限りです。既に各地のダルクが刑務所メッセージに取り組んで久しいですが、なぜか潮騒には声がかかりませんでした。薬物乱用防止教育の学校講演メッセージの依頼もほとんどありません。唯一、潮騒ではアルコール依存症の治療で定評のある秋元病院(千葉県鎌ケ谷市)へのメッセージを長く続けさせてもらっていますが、正直なところ歯がゆい思いが禁じえませんでした。潮騒は他のダルクよりメディアの露出度が高いにもかかわらず、施設名に「ダルク」の名を冠していないためか、ダルクの一員との認識が弱いようです。これがハンディとなり、先方にはあえて声を掛けるまでのインパクトを持ってないのかもしれません。

言うまでもなく私達アディクトは、話の上手さや話芸を売り物にする芸人やキワモノ・パフォーマーではありません。自戒を込めて言えば、人前で話す事については場数を踏んでいる私ですが、相変わらず話ベタの感じはぬぐえません。しかし、話は上手くなくても通算7回・約20年の受刑生活を踏まえたクリーン14年の回復経験を、私は本音で受刑者の皆さんに届けたいのです。

ご承知のように私達の活動は極めてシンプルです。薬物・アルコール・ギャンブルをやめたい仲間を手助けすることを目的に、「どんな依存症者でも必ず回復できる」という希望のメッセージを伝える事に尽きます。そのため潮騒では、社会貢献活動として各種メッセージに門戸を開いています。特に薬物汚染から地域を守る、学校での薬物乱用防止教育には積極的に貢献したい考えです。国の「ダメ。ゼッタイ」運動とはスタイルこそ違え、向かう方向は同じはずです。どうか私達を地域の有用な社会資源として使ってください。学校、地域、行政機関、企業の皆さん、どうか講演要請をお寄せください。私を含め潮騒では何度も地獄を見てきた仲間達が、それこそ自らの血と涙をもって、熱いハートで体験メッセージをお届け致します。

(センター長 栗原 豊)

県立鹿島灘高校

今年度もスタッフ2人

高校に入学

「学問を始めるのに遅いはない」

栗原センター長の随想(2ページ)でも取り上げているように、今年度もスタッフのブーさん&エンさんの二人が、地元の県立鹿島灘高校の定時制課程(夜間)に入学しました。前年度に同高校に入学した栗原センター長らの前向きな姿勢に刺激を受け、二人とも過去の中退経験を乗り越えて再度、高校での学びをスタートさせました。潮騒では、こうした学びに意欲を持つ入寮者の高校進学を下支えし、可能な限り支援していきます。以下は入学に当たっての二人の抱負です。

高校中退が重大な失敗と気づき 学び直すことを決心

私はこのほど、高校生になりました。新入生としての入学ではなく、2年次への編入学です。というのも私には、甲子園出場常連校として知られる仙台市の私立高校で学んだ過去があります。しかし、1年の時に友人に勧められてシンナーに嵌まってしまい、2年(17歳)で中退してしまいました。でも、1年の時に取得した単位があるので、それが認められて地元の県立高校の2年生に編入できました。今私は36歳ですが、まさかこの歳で高校生となるとは思っていませんでした。センター長が昼間の仕事を終えた後、夜間に同じ高校で勉強している姿に刺激を受けたのがきっかけです。自分も頑張って高校を卒業し、高卒の資格を取る最後のチャンスだと思って、一大決心をした次第です。

潮騒で生活する中で、自分が高校中退ということを公開する機会は度々ありました。逆に仕事に就く際の面接などでは、中退を隠して「卒業」と履歴書に嘘を書いて働いたこともありました。改めて高校を中退したことが重大な失敗だった、と気づきました。母親が苦勞して稼いだお金を、シンナーにのめり込んだ拳句に中退して無駄にしまったことを、今更ながら申し訳なく思います。まだ若かった自分は遊んでばかりいて、実際は母親に守られていることに気づかず、自分勝手に過ごしてきました。こうした後ろ向きの歩みを反省し、自分の病氣(依存症)



▲県立鹿島灘高校の正門前でエンちゃん(左)とブーちゃん

から逃げずに自分を律して約20年ぶりの高校生活を全うしたいと思います。(エン)

高卒資格の取得ではなく 「学ぶために通学する」と決意

入学式当日はあいにくの雨でしたが、緊張しつつも私の気持ちは晴れ晴れしていました。「おめでとう!」「がんばって!」。仲間の言葉を胸に潮騒JTCを出発し、式典会場の体育館に入り、新入生席に腰を下しました。思えば私は30年前に都立高校を二年で中退…。既に中学時代からアルコールに問題を抱えており、高校では景気づけに一杯ひっかけて通学する状態でしたから、飲酒行動の度が過ぎて出席日数が足りなくなったのです。でも今回の入学に当たっては、高卒資格の取得ではなく「学ぶために通学する」と決意しました。

この高校で1年先輩となる、栗原センター長らの学びに向けた情熱と前向きな姿勢に打たれ、「ならば自分も学びの喜びを」と奮起した次第です。式の中で特に胸に響いたのは、校長先生の「学び続けることは、成長し続けること」のお言葉でした。さらに新鮮な気持ちの出来事は、その後も起きました。担任の先生の案内で教室に移動しようと下駄箱へ向かう際、江戸しぐさの如く、「お先にどうぞ」とクラスメイトが順を譲ってくれたのには、頭が下がりました。「俺って、15歳の時こんな事できたっけ?」と反省させられました。

式後には、栗原センター長・マコトさん・エンちゃんらが写真撮影のために車で駆けつけてくれて、何故か緊張がほぐれていました。今年度から心を新たに、仲間と共に回復に役立つ施設プログラムと高校での学業を頑張って継続したい、「いつか施設を立ち上げたい」なんて妄想に浸っていたら雨は上がり、お天道様に照らされていました。神様、潮騒村?の仲間たち、鹿島灘高校様…ピカピカの一年生をよろしく願います。後日談ですが、なんと私は所属するクラスで学級委員に選ばれてしまいました。どうやら高校でも責任が重くなりそうです。(1年E組 ブー)

総勢150人

潮騒大運動会

先月号で既報したように、潮騒ジョブトレーニングセンターは3月19日、行方市白浜の茨城県立白浜少年自然の家で、入寮者全員が参加した施設単独の「第1回・潮騒大運動会」を開きました。大規模施設のメリットである多様で多彩なマンパワーを生かそうと、関連の各施設や部署ごとに4チーム(赤・白・青・緑色)を編成し、体力のない高齢者からも楽しめるように種目に工夫を凝らすなどして、大いに盛り上がりました。この日は、入寮者とスタッフ、支援職の事務員、それに急な連絡にもかかわらず応援に足を運んでくれた家族会の有志や地元支援者ら総勢約150人が参加し、応援合戦も含め好天の青空に歓声が響きました。以下は、参加した仲間の感想ですー。(み)

トム
感想文

仲間の「楽しかった」の聲が 何よりの財産

これまで潮騒の運動会は土浦市郊外の里山にある県の宿泊研修施設で一泊二日の合宿プログラムに組み込んで実施してきました。しかし、施設が大所帯となったのに加え、入寮者の高齢化、ハンディキャップの多様化に伴い、現地までの移動や交通事故対策など深刻な課題をどうクリアするかの問題が浮上。そのため、今回の話し合いではスタッフの負担やトラブルなどのリスクを考えて「一回、見送ろうか…」との消極的な意見が大勢を占めていました。

その矢先に、支援者の方から「いっそ本格的な運動会に取り組んではみてはどうだろう。人数の多い潮騒なら可能なのでは？」という貴重な助言がありました。本音の部分では「めんどくさいなあ」という思いが先に立ちましたが、スタッフも会議を重ねる中「どうせやるなら本格的な運動会にしよう!」と意見がまとまり、運動会プロジェクトがスタートしました。ミーティングの中で、具体的にどのメンバーに何をしてもらうかという絵を思い浮かべながら、スタッフ間で熱い話し合いが続きしました。会場の選定では運動会を実施できる規模などで候補地が二転三転し、意見の衝突もありましたが、最終的には「潮騒らしい運動会を行おう!」ということで、デイケアのリーダーとして信頼の厚いツカ隊長の下でスタッフが一致団結しました。

当日は私達スタッフの苦勞が報われるようにと天候も味方してくれ、運動会日和の快晴の下で開くことができました。ぶっつけ本番なので多少のまごつきや準備が追いつかなかった部分もあったのですが、思った程のトラブルもなく概ね大成功との評価を仲間達や参加頂いた



家族会、支援者の皆様からちようだいできました。普段うつむいている仲間が「楽しかった」と言ってくれたことが何よりの財産です。せっかく頂けた第二の人生なのだから、楽しんだモンがちです。スタッフの一人として、そんな前向きな感想を抱きました。これから何が出来るかな？

エビ
感想文

競技に参加しているうちに 夢中になっている自分がいた

運動会など何年ぶりだろうか。小・中学校の運動会での駆け走は上位だったので、「やっと私の時代が来たな!」と思った。だが、まともに走らせてもらえないのが、我が農業隊である。今回、私のコンセプトは「殺し屋だ」などと訳の分からないことを言っている組長のヒトシ。「あ〜あ、またこの人の悪い病気が始まったな…」と思った。いつもの事ながら私らの組長は普段の農作業より、こういうイベントになると、ここぞとばかりに力が入る。その度に私は頭が痛くなり、「こんなはずじゃなかったのに…」といつも思う。でも、私は組長の意をくんで「殺し屋」を演じ、おもちゃの拳銃でバンバン撃って走りました。結局、駆け足はビリでしたが…。

当日、私は(殺し屋らしく)ヅラをつけて、黒いサングラスに黒い帽子を被っていたので、誰だか分からなかったようだ。「お前は誰だ、サングラスをとれ!」と偉そうに言って来るじいさんがいた。栗原センター長だった。サングラスをゆっくり外したが、まだ分からない様子。仕方なく小声で、「エビです」と言ったら、「なあ〜んだ、エビちゃんか」とニッコリ。私とはあまり会う機会がないので誰か分からなかったのだろう。しかし、もういいかげん覚えてほしいものだ。それはともかく、今回の運動会は凄く良かった。競技に参加しているうちに夢中になっている自分がいた。あるかどうか分からないけど、今度は秋の運動会が楽しみだ。

シゲ
感想文

なんと大縄とびでは 連続16回も跳ぶことができた

晴天に恵まれ、潮騒の仲間達が全員協力して最高の運動会でした。酒に溺れ一歩も歩くことができなかった私、なんと大縄とびでは連続16回も跳ぶことができました。自分の無力を認め、「今日一日」を素直な心で生きていきたいと心から思います。本当に参加させていただきありがとうございます。センター長始め、スタッフの皆様ありがとうございます。

ザッキー
感想文

晴天に恵まれ、私にとっても 最高の運動会だった

こんにちは。アディクトのザッキーです。今回西成(大阪市西成区=あいりん地区)で色々なことがあり、クスリを使い、そして精神的にも肉体的にもボロボロになり底をつきました。そこから潮騒に繋がり、解毒入院をして次の日には今回の大運動会がありました。晴天に恵まれ、私にとっても最高の運動会でした。クリーンになれたことを感謝して、仲間のサポートに感謝して、みんなで一致団結して、最高の楽しい運動会でした。クスリを使い、ボロボロになった僕を暖かく迎えてくれた仲間感謝です。

ビート
感想文

閉会式での栗原センター長の 言葉が大変に心に響いた

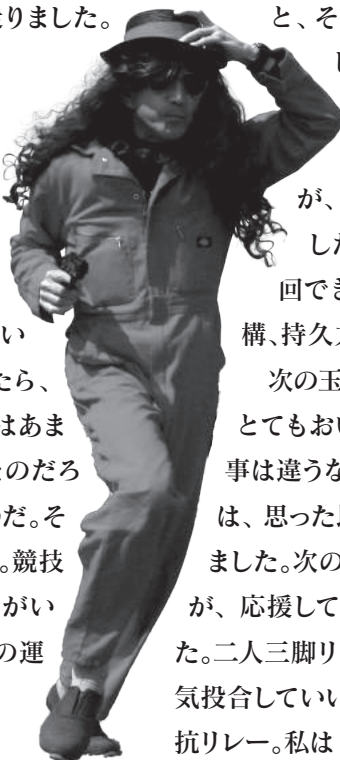
当日は晴天に恵まれ、気持ちよかったです。私にとって運動会は約15年ぶりでした。改めて自分が所属する緑チームを見たとき、どこまでやれるだろうかと少し不安になりました。ですが開会式が終わり、いざ競技開始となると、その不安感は消え、やる気と意欲に変わりました。最初の種目の徒競走は先頭だったので緊張感がありましたが、集中力を最大限にして臨みました。結果は2位でしたが、精一杯の感情が自分の中で湧き起こりました。次の種目は大縄とびで、練習では10回できたのですが、本番は一回だけでした。結構、持久力が必要な競技だと実感しました。

次の玉入れで午前の部が終わり、昼食、お弁当がとてもおいしかったです。やはり体を使った後の食事は違うなと実感しました。午後の部最初の綱引きでは、思った以上に足腰を酷使し、足の筋肉が突っ張りました。次のパン食い競争には参加しなかったのですが、応援していて仲間の一生懸命な姿に心が和みました。二人三脚リレーは同じハウスの先輩と一緒に走り、意気投合していい結果となりました。そして最後のチーム対抗リレー。私は3番手で一生懸命に走ったのですが、なんと二回も転んでしまい、緑チームに大変迷惑をかけてしまったと猛反省しています。閉会式ではセンター長の言葉が大変に響き、私の心に気持ち良い春風がそよぎました。

グッチ
感想文

足は痛かったけど障害物競争や リレーが楽しかった

潮騒の運動会に参加し、とても疲れました。でも、当日は天気もよく、仲間のみんなと楽しんで出来たことはとても幸せに思います。用意されたプログラムの中では、普



段鍛えてないこともあって走る競技については足が痛くとてもつらかったけれど、障害物競争やリレーの時はとても楽しかったです。自分は紅組で成績は今ひとつでしたが、野外で心地よい汗をかけたことは日頃のストレスを吹き飛ばし、とても気持ちがよかったです。また来年も運動会に出たいなあと思いました。

カコ
感想文

運動会を盛り上げようと ハチマキ120本を制作

今回初めて一日がかりで取り組んだ潮騒大運動会のために、女性ハウスでは応援グッズを用意して盛り上げようとハチマキを120本作りました。ミシンの調子が悪くて、ほとんどの仲間が手で縫いました。るみさんに良いところを見せようと3日前からは、仲間が二人三脚の練習を始めました。見事に転んで流血しながらの練習でしたが、心の中では心配と笑いで溢れていました。当日はみんな気合いを入れて、50メートル走、大縄飛び、玉入れ、綱引き、リレーとほとんど出場して全力で頑張りました。大縄跳びでは仲間が負傷するハプニングもありました。白組は私達青組よりも明らかに強いメンバーで、優勝こそ逃したけれど、凄く楽しかったです。学生の頃の様には動けなかった私ですが、このスタイルの運動会が毎年の恒例イベントになっていくと思います。なので、私も来年までにダイエットをして走れるように努力します。準備に関わったスタッフや、支援者、家族会の皆さん、本当にお疲れ様でした。



みく
感想文

みんなが力を合わせれば とても大きなパワーになる

潮騒大運動会は好天に恵まれ、るみの家の女性メンバーはやる気満々です。前々日に二人三脚の練習をしていて、転んでしまいヒジ、ヒザに怪我を負いながらも笑い転げて、「本番は大丈夫だよ!」と言う仲間。私はというと、体が不自由なために参加種目が限られ、ひたすら写真係と応援席で「青勝て〜!」と声を張り上げていました。でも、綱引きは頑張りました。「せ〜の、引けえ引けえ〜」と、ありったけの力を出し切りました。玉入れも確実に入れましたし、自分では精一杯頑張ったつもりです。結果として優勝は出来なかったものの、女性メンバーの底力を

男性陣に見せつけてやりました。みんなが一丸となって力を合わせると、とてつもなく大きなパワーになる、それがるみの家なんだとつくづく思いました。青空の下、心地よい汗をかきとても良い1日を過ごせたと思います。来年は少しダイエットをして、リレーで出場出来たら良いなあと思っています。何しろ今は走るより転がった方が早いくらいまん丸なので…また来年楽しみにしています。

まこ
感想文

大縄跳びでは青組女子チームは 突出して強かった

潮騒大運動会では各自が必死に種目をこなしてました。私はといえば、前日まで体調が優れず、このため二人三脚や大縄跳び競技に出場できませんでした。寂しい思いもしましたが、元気に芝生のトラックを駆け抜ける仲間を見て、とても興奮しました。仲間達と楽しく食べるお弁当は、本当に美味しかったです。そして午後の部の大縄跳びでは女子チームは突出して強かったです。私達は女子力パワーで総合2位です。青組の女子は本当に応援も含め頑張ったと思います。最後の青組のリレーでのセンター長の力走は最高でした。殆ど応援でしたが来年は必ず出場したいと思いました。

たえ
感想文

仲間100人以上の大運動会は とても良い思い出づくりに

第一回目の春の運動会、朝からテンションが上がりウキウキした気分です。車に乗り出かけました。会場は思ったよりもグラウンドが狭く感じたのは私だけかもしれませんが、アレぐらいで丁度良かったのかもしれないと思います。私は二人三脚と玉入れ、綱引きの3種目に参加しました。思ったよりも速く走る事ができたし、玉入れも思ったよりうまく入ったし、綱引きは思いっきり力を入れて引いたので、次の日は腕から足から腰から筋肉痛で痛くて仕方ありませんでした。でもとても楽しかったです。この年になってからまた100人以上の人達と一緒に運動会をすることが出来て、とても良い思い出づくりが出来ました。私達青組は残念ながら2位だったけど、みんなとても頑張ったと思います。出来れば優勝したかったのが本音ですが、とても楽しかったので満足しています。

ゆうこ
感想文

自分が頑張れるのは 大運動会を乗り越えられたから

施設を挙げての運動会があると聞いても、今までの私だったら精神面が崩れたり不安定になったりしていました。でも、今回は「とにかく頑張ろう!」と思える自分がい

ました。事前に仲間と二人三脚の練習をして転んでしまい、怪我をして痛かったけど、そうした中で当日を迎えました。凄いなあ、なんて壮観なんだ、と潮騒に入寮している人数の多さにビックリはしたけれど、みんなと楽しく競技に参加できて自分に自信が持てるようになりました。本当に楽しい運動会でした。もっとも次の日は筋肉痛になって痛かったけれど、今の自分が頑張っているのは多分、この大運動会を乗り越えられたからだと思います。

なあな
感想文

来年こそ私も競技に参加して1位を狙いたい

女性ハウスでは、数日前からハチマキを手縫いしたりと大忙しでした。事前に障害物競走の練習をして転んだので、「本番では転ばないぞ!!」と気合い満々で会場まで行きました。ですが…2種目めの大縄跳びの練習で、私はまたしても転んでしまい、足首を捻ってしまったのです。それからというもの、足首は腫れ上がり動けなくなってしまう、結局1種目も出ることも無く、運動会が終わりました。トホホ…。私は応援席で一人応援歌を歌い、みんなの出ている綱引きや、玉入れを応援する羽目に。なんとも切ない運動会でした…。年齢と体型には勝てないんだなあ、と思いました。でも、そんな情けない自分に笑えます。来年こそは一種目でもいいから出たい!と思います。結果ですが、私達青組は2位でした。みんなとても頑張ってくれたおかげだなあと思います♪ 来年こそ私も競技に参加して1位を狙いたいと思います!!

いるか
感想文

普段体を動かす機会が無いのでとても良かった

今回初めて、潮騒の大運動会に参加しました。私は足が悪いからリレーには出られなかったけど、パン食い競争と綱引き、それに玉入れには出場しました。本当に楽しかったです。子供に戻ったみたいで、無我夢中で競技にのめり込んでいました。そんな中、大縄跳びで足を捻挫してしまい最後まで参加できなかった仲間がいて、ちょっと残念で可哀想でした。だけど良いストレス解消になりました。普段体を動かす機会が無いのでとても良かったです。また来年、是非参加したいです。

れいこ
感想文

自分の限界応じて体力作りに励もう!と感じた1日だった

晴天の下で開かれた運動会に参加し、私は心地良い汗をかく事ができました。日頃の運動不足のせいか体力もついて行かず、息切れを感じ、歳ばかりのせいにはでき

ないなあ〜という事を実感しました。アディクトである私達には、体力の限界はすぐにやってくるなあという思いも同時に感じました。これからは、まず自分の限界を知り、それに応じて自分なりの体力作りに励もう!と、新たに感じた1日でした。

ゆめ
感想文

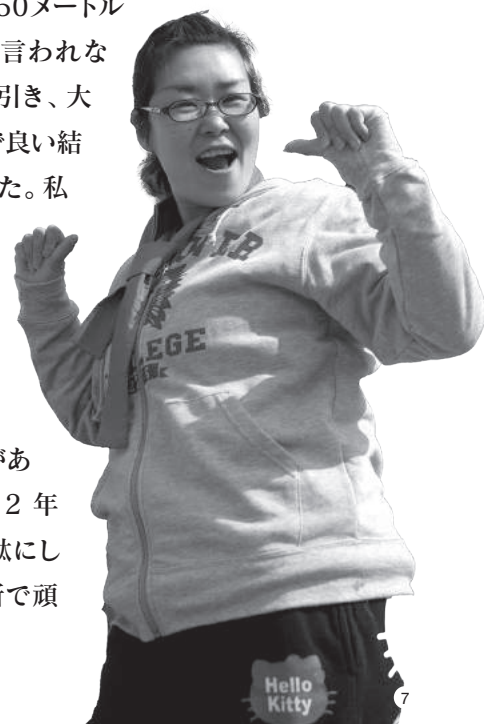
自分のしてきた事や過去を見つめ返せた運動会だった

中学校以来26年ぶりに運動会に参加した。何年経っても運動会って楽しめるものだなあ、と思いました。41歳にもなって本当に楽しく参加できました。また若い頃の運動会の事を思い出し、昔も振り返る事もできて、とても良い経験をさせてもらいました。その半面で、子供達のことを思ってしまい、申し訳ない気持ちになりました。潮騒に繋がって改めて振り返ると、年に1度の何個かある行事の中で、家族で参加できる行事にも私は一度も行っていけることが出来なくて、子供達には淋しい思い、辛い思いをさせてしまった事を本当に後悔しました。その意味で、自分のしてきた事や過去を見つめ返せた、唯一の運動会でした。お疲れ様でした。

メイ
感想文

るみの家での生活を無駄にせず今置かれた所で頑張る

運動音痴の私は小さい頃から運動会では活躍することも無く、どちらかというと嫌な行事でした。それが中学以来、実に24年たつての運動会に、見る側では無く参加する側という事になりました。正直、あまり乗り気じゃありませんでした。でもそこは、るみの家のみんなの力で盛り上げました。練習では流血したものの、二人三脚の本番も思い切りやりました。50メートル走はみんなに「遅っ!」と言われながらのゴールでした。綱引き、大縄跳びも気合いと根性で良い結果を出す事が出来ました。私達青組は結果は総合2位、でも満足です。私には今年14歳になる息子がいますが、息子の運動会に足を運べない不甲斐なさ、もどかしさがあります。潮騒に繋がって2年弱、ここでの生活を無駄にしないよう、今置かれた所で頑張りたいです。



4月15日放送 TBSテレビ「報道特集」 「行き場のない障害者たち」

4月15日放送のTBSテレビ「報道特集」で、依存症リハビリ施設の潮騒JTCに、“行き場のない仲間”が増えている実態が取り上げられました。従来の枠に収まらない人達の登場で施設運営の困難に直面しながらも、既存の福祉施設の常識や形に囚われない潮騒の未知の可能性が示されました。番組では、発達障害などを抱える仲間密着取材して彼に起こったプラスの変化を捉え、後半では思春期からの理不尽で過酷な運命を、依存症になることでかろうじて生き延びてきた女性メンバーの孤独と苦悩、そして潮騒での希望が描かれました。



「報道特集」の反響と潮騒の 基本的な考えについて

番組放送後は各地から問い合わせや入寮希望の電話が多数寄せられました。いかに多くの家族が依存症問題に苦しんでいるかを思い知りました。取材担当の瀬戸さんとは深い信頼関係があり、潮騒の仲間達も同じです。潮騒では仲間達の安全安心を保障するためにアノニマスの基本原則にしていますが、一方で回復に向けては自分に正直に向き合い、仲間の中で本音を吐ける、家族以上の関係の構築を目指しています。できれば、それを社会に向かって一歩踏み出してほしい、というのが私の願いです。だから潮騒では、自分が納得できる内容なら素顔でメディアに登場する流れになっています。

今回は既存の障害者施設から追われ続けた知的障害と発達障害のナオトと、思春期に父親から性暴力被害を受け心に深い傷を負った人格障害のハンディを持つカコの2人に焦点が当てられました。二人とも潮騒の体質が水に合っていたようで、仲間との触れ合いを通して回復・成長していく姿を地道にカメラが捉えました。私には障害を分野ごとに仕分けする医療的な発想がありません。通算20年に及ぶ刑務所経験で、困難な障害を持つ受刑者の世話を体験したからです。統合失調症も発達障害も人格障害も、私にはみんな仲間です。構えを崩して彼らと本音で向き合えば、時間はかかっても心を通じ合えると考えるのです。

そんな私も当初は、回復実績を上げようと焦って線引きと管理主義に囚われていました。でも、それは間違いでした。一番してはならない差別・選別に繋がるからです。だれが回復でき、だれが回復できないかは、それこそ神

の領域、霊的な世界の問題です。潮騒は社会との中間施設という制約から無制限の受け入れはできませんし、スタッフの力量にも限界があります。でも、一対一の手厚いケアが必ずしも当事者にとって幸せな環境とは言えません。私の経験では10人に一人ぐらいは困難な障害者の受け入れが可能だと考えています。

当事者本人も世話する周囲も案外、気づかないのですが、潮騒ではこの試みが結果的に“いい方向”に向かっています。人間は理屈では割り切れない存在です。アディクトはその典型といってもいいでしょう。そうした、いろんな人がいて社会は成り立っています。障害も個性だとしたら、いろんな個性を持つ仲間がいるからこそ、社会は面白いのだと私は思います。未知の不思議なパワーに突き動かされながら、今後ともできるだけ線引きや色分けから最も遠い施設を、私は目指していきます。(センター長 栗原豊)

あそこまで自分を赤裸々に 明かせたのは施設と仲間のおかげ

今回の「報道特集」では、私も少しだけ出させてもらう機会がありました。カメラを回してくれた瀬戸さんとは昨年出会い、潮騒を通して取材を受け何度か話をしたりしてきました。次第に心が開かれて、自分の過去を思い出しながら、赤裸々に話をしてきました。それが可能だったのは、心に病気を持って苦しんできた私を受け入れてくれている、「るみの家」という施設の包容力、温かさがあったからです。自分の映像を見て、今更ながらその事を実感しているところです。とても重たい内容だけに、私の心の中はドクドクと鼓動が止まらなくなり、複雑な気持ちになっていたのが本音です。で

も、すぐに施設長のルミさんが「辛い」「すごいメッセージを運んだだね」というメールをくれて、「ああ私はもう一人じゃないんだ」と心から安心しました。

この先は誰が何を言っても、これは私の経験であり、このことを明かせたのも、ここで毎日行っているミーティングと仲間のおかげです。仲間が、私と同じように辛く切ない、涙なしでは聞けない重い経験を話したり、聞いたりする中で、家族と同じような深い絆が生まれています。私は長かった苦難のトンネルを経てやっと自分の居場所に出会い、ここでの絶対的な安心感の中で、過去に染みついた自己中心的な考えを、行動を、変えていく勇気と生き方を学んでいます。放送後に「るみの家に来たい」と連絡がありました。改めて「テレビの力って凄いなあ」って思いました。私自身も、誰かの心が安らいだり、前向きになっている人が、自分の居場所で、置かれた場所で花咲くことを願っています。まあこのフレーズは、栗原センター長が仲間にくれた言葉の贈り物の一つですが…。テレビを見て応援してくださる皆さん、本当にありがとうございます。(かこ)

ナオトの成長は自分自身の成長にもなっている

今回の報道特集による一連の取材と放送によって、私は困難な障害をもって生きる仲間のナオトとの生活を振り返る事ができました。ナオトの生活面を傍らで支える大事な役割を担う私ですが、まあ本音をいえば、ナオトは言葉によるコミュニケーションに大きな壁というか難があるので、とても大変な時期もあり、悩んでしまった時期もありました。また、彼のもつ障害特有の徘徊や暴力的な言動もあり、多くの仲間が協力してくれなかったなら、今日のようなナオトにはならなかったと思います。食事の事、風呂の事、そして夜寝るまで一時も目の離せない生活が続いていました。でも、不思議な事に3カ月ぐらい経って少しずつ、自分の居場所を見つけて気持ちが落ち着いたのか、問題行動も徐々になくなっていきました。

最近は、少しだけですが話もするようになり、施設生活では自分の成長に向けて大事な感謝の言葉となる、「ありがとう!」を言える場面が多くなっています。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、「人は生まれ変わる」手本かもしれません。ナオトと寝食を共にして、その言葉の意味を実感しています。そうは言っても日々の暮らしと現実とは、そう楽しいことばかりではありません。自分の未熟さから時おり感情が揺さぶられることもあるけれど、間違いなくナオトの成長は自分自身の成長にもなっていると思います。(フジ)

テレビ映像によって ナオトの成長ぶりに驚かされた

「報道特集」の放送を見て、担当された瀬戸さんの技術は凄いものだなと感じました。画像の組み合わせなど、やっぱりプロだと思います。でも、本当にびっくりしたのは映像で浮き彫りにされた、ナオトの成長ですね。身近にいと生活で手いっぱいでも客観的に見る余裕が持てないのが実情です。なので第三者のテレビ映像によって、今回改めてその意味を実感させられました。

それにしても去年の9月頃、ナオトが潮騒に来た時は「とんでもない場違いな子が来たな!」と戸惑い、まさか一緒にナイトケア生活になるとは思ってもみませんでした。ガラスは割る、網戸は壊すわ、手がつけれない状況でした。いつの間にか自分がナオトの世話係のような立場になったものの、作業隊メンバーの一員である自分は、四六時中ナオトとは付き合っていられません。

でも、不思議なんですよ。どうしても無かった子が、施設での月日が流れるにつれ、少しずつ素直さが出てきたんです。確かに場面場面では、外に逃げ出したり、車から勝手に降りたりと、いろいろ小さなトラブルがありました。それが「報道特集」の映像のように、運動会の時には自分からレースに出たり、いつの間にか人気者になっていたりと、驚くばかりです。そうは言っても実際は気を遣う事も多いです。例えば体重、最近のナオトは当初とは見る影も無く、100 kg台に増えてビックリ、です。欲望・欲求の抑制は自分達の課題でもあるだけに、一緒になって日々コントロールしなければ、と思います。

それにしてもテレビの反響は、ほんとに凄いですね。自分の姉も偶然、あの番組を見ていたらしく、すぐに電話が鳴りました。ついに俺も有名人?なんてね。それはともかく、改めて潮騒ジョブ、そしてナオトを取材してくれた瀬戸さんや、協力してくれる仲間感謝しています。これからも仲間と共に回復の道を歩んで行きたいと思います。(トン)



▲行き場のなかったナオト(左)の着替えを手伝う世話係のフジ

受刑者からの手紙

私は自分自身を信じていこうと頑張っていくつもり

シゲさん。毎日のミーティングやプログラムで忙しい中、手紙を書いて下さって有難うございます。シゲさんは薬物とアルコールの依存から回復する為に潮騒にお世話になっているみたいですね。私も何年前にある病院でアルコール依存症と診断されました。私は酒が大好きで毎日2リットル以上の量を飲んでいても、翌日の仕事には必ず出て働いていましたので、私自身、アルコール依存症ではない、と思い込んでいました。いつも精神科の担当医師とケンカばかりでした。禁酒する為に、抗酒剤を毎日飲まされていましたが、シゲさんも“抗酒剤”を飲んでいるのですか？ 肝臓が悪い人には劇物らしいので、飲まない方が良いと思います。

私にはアルコールを止める事無く、別の施設に毎日参加していた時期があります。そこでプログラムに参加し、メンバーの体験談を聞いて得た事は、“私自身の考え方が他のメンバーとは違うのだろなあ”と、再確認できた事です。私は「遊びは遊び、仕事は仕事」と割り切った考え方なので、お酒にはのめり込まないで済むようです。でも、アルコールを覚えた20歳代の頃にはのめり込んでいました。その頃はヤクザの道に進んでいたのだから仕事と遊びを両立出来ていたのだ、と思います。今になって思う事は「遊びには金、金には仕事」ではないですか？ だから私は遊びたいからこそ、仕事をしているのです。

人間、色々な人がいるので、それが正解かは分かりません。が、私は自分自身を信じていこうと頑張っていくつもりです。シゲさんも、以前の自分と今の自分はだいぶ変わってきたのでは無いでしょうか？ これからの人生どうしたら良いのか？とか、今後の生活設計など、アルコール・薬物をやらない意志を今よりもっと固めていく等々、考える事だらけですが、「H」の地より、私はいつも応援しております。（北海道 N・M）

同囚の中に「刑の一部執行猶予」が目立つようになった

栗原施設長からの葉書が届いた日は、私の五十歳の誕生日の日で、私が“この頃社会との縁も切れて来て心寂しく思ってた”丁度その頃だったので、とても嬉しく、そして心暖まる葉書でした。文中の「薬物で失ったものは、薬物を止めれば再び与えられる」とありましたが、私の今までの人生は「得るも失うも薬物があってのもの」でしたから、何事も薬物中心の考え方が身に付いてしまっています。その考え方や生活習慣病を変える事ができなければ、きっと私は「一生命の繰り返し」なのでしょうから、この言葉を大切に今後を生きて行こう、と思います。

私の務めている刑務所の同囚の中にも、ポツリポツリと「刑の一部執行猶予」の方が目立つようになってきました。この制度によると例えば『実刑二年、ただし刑の内六ヶ月を執行猶予にする。』との判決で、その残りの務め分一年六ヶ月の中から更に仮釈放が貰えるのだから、私より遅く来た人達がどんどん早く出所して行く現状が今、目の前に有ります。“今までの私達は何なの？”と云う気持ちが正直ありますが（笑）、覚醒剤依存症が病気として社会に認められてきている事が、とても良い事だと思います。

勝手気ままな文になって仕舞い申し訳ありません。私方とはとにかく、「今、目の前に有るものに一生懸命になる事」を何時も胸に留めて生活していきたいと思いますので、施設長、潮騒の皆様方、また良いアドバイスがあれば宜しくお願い致します。それではこの辺りで失礼致します。お身体にはくれぐれも御留意下さい。乱筆乱文多謝。
(神奈川県 U・T)

潮騒ジョブではアルコール依存症者が多いのが特徴の一つです。あえて言うなら社会で認められている「合法薬物」ですから、なかなかやめにくいのが現実です。施設内でもハードルが低いという認識があるせいか、“隠れ飲酒”が目立ちます。病気が深いと言えばそれまでですが、本人にやめようという気がない限り、周囲の助言や監視は無力です。

自分の“薬物復興”は何時になったら始まり終わるのか

お元気ですか。やっと懲罰が終わりました。しかし、またすぐに懲罰です。「俺、何やって居るのだろう」って思います。でも、「こんな懲役もいいかなあ」って思っています。仮釈は貰えませんが、満期でそちらに行けると思いますので、楽しみに待っていて下さい。あとシゲさんからのお手紙が届きました。封筒が変わったのですね。でも、シゲさんの字は変わらない、物凄く暖かいです。潮騒通信も届きましたよ。手紙を書ける時にはシゲさん宛で書きます。今日は3月11日、東日本大震災の日です。あれから6年、月日が流れるのはとても早いもので、私はN務所に収容されて居ました。そして自分は今回また同じ覚醒剤でこのT刑務所に収容されている、と云う情けない話です。宮城、福島は復興に向って居ると言うのに自分はまた刑務所です。“依存症”と云う一つの言葉で片付けてしまうのは“とても情けなく”自分の意志の弱さが一番の欠点だと感じて居ます。自分の薬物からの“復興”は何時になったら始まり、終わるのでしょうか？シゲさんはもう十九ヶ月も“復興”しているのですね。シゲさん、私を助けて下さい。私が一日も早く復興出来るように力を貸して頂きたいです。薬物依存症はなかなか治りません。しかし今度こそ自分も一日一日“今日だけ”使う事を止める。今はそれだけしか出来ません。取り敢えず頑張ります。

（北海道 F・Y）

これからの人生を今まで以上に頑張るしかない

本来でしたらこちらの方から返事を書いて、もっと早く返事を投函するべきでしたのに、遅くなってしまい申し訳ありません。自分の残刑も後1年程となり、ホッとしています。この受刑生活の中で学んだものと言っても、正直何とも言えません。薬物を断つ力が身についたのかのかわかどうかも分からず、実際に社会復帰してみない事には何とも言えません。

自分一人の力では無理なのかも知れませんが、これだけは言えると思います。自分のような過去にどうしようもない人間以下、まるで生ゴミのような者であっても、これからの人生はどうにかなるかも知れない、過去は絶対に変えられないし、自分の性格上の欠点を変えられない、これから先もどうにもならない、と思います。でも、自分の性格上の欠点を巧く逆利用する事によって、これから先の人生を変える事はできるかも知れない、と思います。これからの自分の一度しかない人生、それを変える事はできると思います。

だからこそ、これからの人生を今まで以上に頑張る、これしか自分にはできないのでは無いか？ そう思うからこそ、これから先の自分は、ただ目の前の時間を真剣に生きる努力をしていくしかない、それが自分にとって一番大事な事であると思って居ます。“今、自分にできる事とは何か？”これをいつも考えているのですが、毎回のようには答えは宿題になっています。ですが、今回この手紙を書いているうちに、その答えが出たような気がしてなりません。

そうそう、忘れていた事が一つあります。潮騒ジョブトレーニングセンターで毎月制作している“潮騒通信”を3～4ヶ月分だけでも構いませんので送って頂ければ幸いです。潮騒通信を読んで自分も少しでも前向きになりたいですし、皆様と共に考え歩んでいきたいと思っている次第です。風邪等お身体には充分御自愛下さい。いつもながら、乱筆乱文御用赦下さい。PS＝作業報奨金を貰ったのですが、やはり6割から4割に減っていてガッカリです。肉体労働でガッツリ動き回っているのに、一般工場より悪く入ってしまうなんて…。本当に馬鹿らしく思えるのですが、ひたすら前向きに頑張るしかないです。悲しいです。

（長崎県 F・T）

しおさい、俳壇

4 月のお題

彼 岸

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.39

センター長 栗原 豊

前回に引き続き、姪からの便りを引用する――。

「お久しぶりです。お手紙ありがとうございます。ユタカさんも手先の器用なタイプなんですね。父(注・私の実兄)も器用で、何かを磨いたり、野菜を花の形に切ったりするのがとても上手です。きっとそういう血筋なのでしょう。私もその血を半分ぐらいは受け継いでいるので、細かい作業は結構好きな方です。革工芸の図案のことですが、どんなものかいいか思いつかなかったので、インターネットで調べてみました。革に刻印がしてあるバッグの写真が何種類か載っていました。ほとんどが植物の模様でした。ユタカさんはどういう図柄がいいのかしら…? 線画みたいなものかいいのかな…? もう少し探してみます。」

私は受刑中に工場内の革工芸科の職業訓練生となり、この訓練を受け始めてひどく興味が湧いた。そして手紙で姪に「革工芸に役立つ何か図案集みたいなものを持っていたら送ってほしい」旨を依頼していた。この手紙では「私の潜在能力の中にこの仕事に向く何かがあるらしく、時間の経つのも忘れて夢中になっていることがあります。出所まで10カ月ありますが、この間に君に革工芸の何かをプレゼントできるぐらいの腕前になれるかも…。本気でそのつもりになって訓練に励むので楽しみにしてくれていいよ。出所後の職業にするのは無理かもしれないが、趣味としたらとても活かせると思う」など書いていた。

塀の中は厳しい規則で縛られているが、前向きな姿勢があれば幅広く職業訓練に取り組める。私は革工芸に自分の適性を感じ、受刑生活の中である種の励みになった。その思いが私の頭の片隅にあって、いつか自分の施設を立ち上げたら実践してみたいと考えていた。それが一昨年、潮騒デイケアのプログラムに革工芸を組み入れ、希望者が専門家の指導を受けることができたのだ。当時の潮騒通信には、参加者が真剣に取り組む様子が取り上げられている。このようにアディクトにとって大事なものは、クスリやアルコールに替わって依存できるものが見つかることだ。でもそれは、体(健康)や人間関係に及ぼすダメージが少ないもの。いい意味での嗜癖や依存と言える。アディクトは変に生真面目というか、一直線に物事にのめり込んでしまう性質がある。半面、すぐに天狗になってしまう悪い癖もある。依存症は完治の無い生涯治療なのに、いつの間にか「治っちゃった」病に陥り、途中退寮してはスリップし刑務所に逆戻り。そうしたケースを何人見てきただろう。自戒を込めれば、クリーン14年の私だって例外ではない。

(次号に続く)

つぐなひのひとみ澄みゆく若葉晴 / 若葉風刑舎に錆の鉄格子

紋白蝶自由の果ての煉瓦塀

芍薬の艶増するよべの星しづく / 鯉幟泳ぎ行く眼を地に戻す

朝刊の分厚きチラシ武具飾り

影を踏み砂利踏み詣づ彼岸寺

しげ

彼岸は太陽が真東から真西に沈みその
彼方に極楽浄土があるとされる仏教の思
想。波羅密、日願のことでもある。日本では8
06年に始めて彼岸会が行われたとも。その彼岸会の
寺へ詣でる、人出の影を踏むに晴れた彼岸日和を思う
句です。また、ぼたん餅、おはぎはその頃に咲く牡丹、秋
の萩の花から名付けたとも。

特選句

彼岸は太陽が真東から真西に沈みその
彼方に極楽浄土があるとされる仏教の思
想。波羅密、日願のことでもある。日本では8
06年に始めて彼岸会が行われたとも。その彼岸会の
寺へ詣でる、人出の影を踏むに晴れた彼岸日和を思う
句です。また、ぼたん餅、おはぎはその頃に咲く牡丹、秋
の萩の花から名付けたとも。

行けぬ墓前お祈りのみの彼岸かな

みく

日本の仏教は宣化帝または欽明帝の時
代に(538、552年)百済から伝わり、
聖徳太子等の努力により布教がなされたこと
に江戸時代に寺請制度が発布され人は何処かの寺に所
属し、墓も設け彼岸などにはお参りするのが定着した
が、現代では個々の事情や田舎の過疎で寺も墓も放置
されるのが多い。先祖を供養することは、老いての自分
への功德でもある。しみじみした哀れを込めた句です。

特選句

日本の仏教は宣化帝または欽明帝の時
代に(538、552年)百済から伝わり、
聖徳太子等の努力により布教がなされたこと
に江戸時代に寺請制度が発布され人は何処かの寺に所
属し、墓も設け彼岸などにはお参りするのが定着した
が、現代では個々の事情や田舎の過疎で寺も墓も放置
されるのが多い。先祖を供養することは、老いての自分
への功德でもある。しみじみした哀れを込めた句です。

筑波嶺の膨るる気配入り彼岸

ゆたか

筑波山は古来歌会の山としても名高く、
今風に言えば合婚の場所でもあろうか、ま
た筑波は昔に紀の国と言ったが、崇神帝の御
代に筑波の命が国造として都より派遣され、後の世に
も我が名を残したいと思い、筑波と名付けたと常陸風
土記に記されている。暑さ寒さも彼岸までと言うが、筑
波の嶺も膨らむ様に見えて、いよいよ春を思う句です。

特選句

筑波山は古来歌会の山としても名高く、
今風に言えば合婚の場所でもあろうか、ま
た筑波は昔に紀の国と言ったが、崇神帝の御
代に筑波の命が国造として都より派遣され、後の世に
も我が名を残したいと思い、筑波と名付けたと常陸風
土記に記されている。暑さ寒さも彼岸までと言うが、筑
波の嶺も膨らむ様に見えて、いよいよ春を思う句です。

秀逸句

秀逸句

手を合わす彩り多き彼岸供花 しば

墓前か或いは仏前か、彼岸のお参りに供花をするが、秋
と比べれば花も多く色も明るい、それが春の彼岸でもあ
り、この頃から春らしくなる。仏事は淋しいが、春の花がそ
れを慰めてくれる句でもあります。

彼岸寺母への想ひあふれけり れいこ

原句には季語が無いので入れましたが、これで亡母の墓
のある寺に詣でて墓前で母を偲ぶ詠になります。現代では
彼岸でも墓参りは難しいですが、故郷の寺や墓に詣でるの
も人生を顧みる好機になります。

お彼岸や懐かし母の草だんご あべ

彼岸の頃には蓬(よもぎ)が生えて私の子供の頃にも母
や祖母が団子を作ってくれましたが、手伝いに蓬を摘んだ
のも懐かしい。今では彼岸になるとコンビニでも牡丹餅や
彼岸団子を売る。句の作者もその母を偲ぶ句です。

見守って彼岸にお香あげるから ゆめ

普段は墓が近くにある人でないと参れないが、帰省や彼岸
には日本中で墓参りが行われる。先祖を敬うことは、巡って自
分の幸せにも繋がる。亡父母に願いを込めての墓参の句です。

故郷を遠くに一人鬼は外 トモユキ

現代社会は核家族化や都会へ出て就職するのが多く、独
り住いで節分を迎える人もある。都会は賑やかな面が強調
されるが、案外に隣近所の付き合いも無く寂しい。節分は
春を迎える行事だが、この句は哀れも誘う思いです。

佳作

向こう側いつかは渡る彼岸かな	しば
華やかに赤黄青の彼岸供花	おの
お彼岸に墓石磨く親子かな	しげ
お彼岸に食べて懐かしぼたん餅	ゆうこ
今の我れ先祖に伝ふ彼岸かな	くま
彼岸過ぎ庭の日和も春思ふ	めい
亡くなりし父母思ふ彼岸かな	かこ

咲き乱る墓前の花も彼岸かな	みく
お彼岸の祖父母を迎ふ今朝の空	いるか
父母の墓行けぬ寂しき彼岸かな	まこ
お彼岸の先祖の供養早や済ます	G
雛の間の小さき椅子に幼き子	あべ
耕しの風渡り来る筑波道	あべ
千切れ来る彼岸の雲や鹿島灘	ゆたか

どっこい私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第6回

無気力から脱しつつも、無力のまま北海道へ逃避行…

僕にとっては4か月足らずの短期間ホームレス生活だったのですが、元医者だったという年配ホームレス仲間から「もう十分だろう… 宛て場(一般社会)へ戻れ」と諭され、手渡された三万円を握りしめて、料理の修行を再び決意しました。…が、中華料理店を営んでいる世田谷区の叔父の所へ電車で向かう途中に飲酒欲にかられ、売店で買った缶ビールと冷酒を口にしたら、あて違いの六本木に友人といました。2人してクラブで飲んでいたら、ママさんに「うちの営業時間後(AM1:00)に、あなた達で朝まで営業してみない?」ともちかけられました。

酒を介して繋がる才能?でしょうか(笑) すっかり打ち解けてしまい住み込みで働けるようになったのです。浅草ホームレス生活の、虚無的で酔っていた日常から脱しようと決意するも、やはりアディクト… 自分で働いたお金で酒が飲めるようになると、「俺はもう大丈夫。社会でやっていける。」と勘違いしてしまったのです。

「好事魔多し」ってやつで、まるで神様が自分を試すかのように厳しい落とし穴が待っていました。給料日前に酔った勢いから、まとまったお金を手にしたくなりサラ金から5万円位借りようと、ローン地獄に嵌まる入り口に立ちました。サラ金の社員が六本木のママの自宅に電話をし、僕が働いていることが確認できると、すぐに10万円を貸してくれました。「給料日には必ず返すんだし… 服を買ったり、キャバクラで飲んでも困る人は誰もいない… 最初で最後、大丈夫。」などと思っていたのに、2・3日後には他社で借り入れをして、再びキャバクラへ…。

アディクト特有の「寂しさの病」と僕特有の「寂しがりやでも独りがいい」がジャムのように合わせ混ざり、キャバクラで一人で歌って店を出る… なんてことを有り金でやっていました。その後、ママの店の従業員の保証人になり(酔った勢いで判を押す)トズラされた挙句、計4社の借金は200万円以上になっていました。

ドストエフスキーの言葉で「神と悪魔が戦っている…それは人間の中である」とありますが、僕の中では悪魔が戦わずして勝っていました。

ママの自宅と店には、しょっちゅう督促の電話が入ったり… どうやって調べたか、僕の実家にも取り立てに来て、留守だと分かったと帰ってゆく姿を、離れた非常階段から目にした事もありました。そして1995年の暮れ、義父に3万程借り、アルバイト情報で見た牧場に電話をして、北海道へ逃避行してしまう… 病的酒飲みの24歳でした。(次号に続く)

4月のバースデー

シゲノリ



長生きします

トモユキ



考えないようにしています

赤い羽根共同募金 伝達式

～ゆたかの里と下津施設に懸案のエアコン設置へ～



NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンターが施設環境の整備に向けて助成を申請していた、平成28年度の赤い羽根共同募金の募金配分(広域助成)の交付団体に選ばれました。これを受けて戸田市千波町の社会福祉法人・茨城県共同募金会(県総合福祉会館内)で4月6日、配分決定の伝達式があり、栗原センター長が出席して伝達を受けました＝写真。同団体による潮騒への助成は過去3年間だけでも平成25、26年度に続くもので、3回目。同募金会によると、今回(平成28年度分)には合計56団体が選ばれて、交付を受けたそうです。

潮騒が平成28年度分募金に申請していたのは空調設備工事の事業です。具体的には懸案となっていた関連の2施設(グループホームゆたかの里、下津ナイトケア施設の木造部分)にエアコン計17台を初めて設置するもので、夏頃までに各居室にエアコン設置工事を終える計画ですが、業者見積もりでは工事総額は153万円で、このうち同募金から103万5千円が助成されます。

これにより両施設は快適な生活環境となり、入寮者の共同生活の円滑化、安定した回復プログラムへの取り組みが可能になります。とりわけ体温調整の苦手な高齢の仲間には朗報です。栗原センター長は「潮騒は民間の貧しいリハビリ施設。財政力が弱いので居室へのエアコン設置が自力ではなかなか難しいのが実情です。それだけに、いつもながら赤い羽根共同募金様の温かいご配慮には深く感謝申し上げます」と話していました。



4月の行事予定

- 4月9・15日 秋元病院メッセージ
 4月13日 潮騒俳句会
 4月23日 潮騒家族会
 4月30日 潮騒アディクションセミナー

5月の行事予定

- 5月3日 白浜少年の家 うどん作りと魚釣り
 5月4日 潮騒田植えプログラム
 5月5日 潮騒前期の大掃除
 NA はまなすバースデー
 5月14・21日 秋元病院メッセージ
 5月11日 潮騒俳句会
 5月28日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方 (4月15日現在)

- | | |
|--------------|-----------|
| ・ K&G 企画 様 | ・ 高村周次郎 様 |
| ・ 美蘭保育園 様 | ・ 匿名希望 様 |
| ・ 白浜少年自然の家 様 | ・ 田代 政 様 |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
 おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
 ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に
 同封させていただいております。
 どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

TBSテレビの「報道特集」は反響が多かったようだ。番組のキャスターは、モザイクを掛けずに入寮者が素顔で登場したことに驚いていたが、これが可能なのは取材者との深い信頼関係が築かれているからだ。潮騒は無制限にメディア取材を受けている訳ではない、施設には守秘義務があり、入寮者のプライバシー保護はもちろん、何よりも潮騒が当事者にとって安全安心な居場所である。だから入寮者はアノニミー（無名性）による平等原則で守られ、実名ではなく愛称とも言うべきアノニマスネームで呼び合う▼しかし、一步社会に出れば根強い「自己責任論」に晒され、メディアの匿名や顔隠しを嫌う空気が支配する。背後には「一億総共存」社会の同調圧力があり、家族は世間体という日本的な情緒の仮面を被った、得体の知れない「怪物」に取り囲まれている。こうした社会の荒波に抗していくには、できる限り当事者側から社会に「開く」しかない。依存症者には「恥をかいた、その分だけ回復できる」の教えもある。もし責任者が施設を守る発想に囚われていたなら、トラブルやリスク回避を考えて無難な施設運営になるはずだ▼その点でダルクは、「国の基準に合わせるのではなく、自分達のサイズに合わせる」エネルギーが真骨頂のはず。それを愚直なほどに体現しているのが、潮騒なのかもしれない。潮騒には建前でなく本音で、ヒエラルキーでなくフラットに、仲間との絆で孤立を防ぎ、明日よりも今日一日だけ頑張ろう！というシンプルな生き方がある。そこに理屈を超えた不思議な「霊的な力」が宿るのだと思う。依存症ケアで培ったノウハウが、コミュニケーション障害の困難を抱えた仲間にとどこまで通じるかは分からない▼確かに言葉は、依存症の回復にとって大きな役割を果たす。ミーティングでの分かち合い、外部へのメッセージ活動も言葉が通じる事が大前提。潮騒では俳句づくりが推奨されている。でも、言葉を持たない人、言葉でのコミュニケーションに難がある人は不幸なのだろうか？人間には言葉が絶対なのか？人は発語以前の沈黙や五感によって心を通い合わせることができないか？——潮騒はそうした壮大な実験に踏み出したようだ。言葉での理解には難があっても人の魂は通じ合うはずだ、と。全国に一つぐらいこの難問に挑戦する施設があつていい▼閑話休題。このところ女性メンバーの感想が多くなり、紙面の都合で全員分を掲載できないケースが多くなっている。編集担当としては有難い限りだが、ほかの大事な連載企画も載せたい（今回は「潮騒ジョブってどんな施設なの？」を休ました）。しばらくは、こうした贅沢？な悩みが続くかも…。読者からの忌憚のないご意見を待ってます！（市）

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2017年4号

Contents

- P②「念願だった府中刑務所へのメッセージが実現」
 P③今年度もスタッフ2人高校に入学
 P④総勢150人 潮騒大運動会
 P4-5 男性入寮者の感想文
 P6-7 女性入寮者の感想文
 P⑧4月15日放送 TBS テレビ「報道特集」
 「行き場のない障害者たち」
 P⑩受刑者からの手紙
 P⑫しおさい俳壇 4月のお題「彼岸」
 P⑭どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第6回 /
 4月のバースデー / 赤い羽根共同募金伝達式
 P⑮行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

■ 編集・発行：

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム（中施設）
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス 鉢田
 〒311-2113 茨城県鉢田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
 ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



